

宮崎 まさ江 MIYAZAKI Masae

研究分野：地域精神保健福祉・ソーシャルワーク

キーワード：精神障がいのある人の地域生活支援／精神保健福祉士の権利擁護実践／精神保健福祉士の人材育成



研究トピックス：

地域共生社会における精神保健福祉士の活躍の可能性

研究の要旨：

精神保健福祉士は、1997（平成9）年に誕生した社会福祉の専門職、ソーシャルワーカーの国家資格です。これは、1987（昭和62）年に制度化された社会福祉士に次いで創設され、主に精神疾患と障がいを併せ持ち、生活上のさまざまな困難、不利益、不自由等を受けている人々に対して、保健医療と福祉の両面にわたって相談援助を担うソーシャルワーク専門職として定められた経緯があります。

精神保健医療福祉の領域では、「社会的入院」という問題が、国の最大の政策課題であると認識されています。加えて、2011（平成23）年に「5大疾病」に位置づけられた精神疾患は、その患者数の多さから国民的疾患であると言われています。生きていくこと自体がストレスとなる高ストレス社会のなかで、私たち国民一人ひとりが心身の健康をいかに維持し、増進していくか、これは、私たちのメンタルヘルスにおける共通の課題であると思います。

国は今、制度・分野ごとの縦割りや、支え手と受け手という一方向の関係を越えて、人々が住み慣れた地域で自分らしく暮らすことのできる共生社会の実現を目指しています。「縦割り」型支援から脱却し、他人事を「我が事」に変える働きかけ、複合的な課題を「丸ごと」受け止める地域づくりに向けて、ソーシャルワーク活用の可能性を展望しつつ、そこにおける精神保健福祉士の存在や社会的意義、固有の専門性についての研究に取り組んでいるところです。

現在の関心



主な関連業績：

- ・「こころの健康が大切にされる地域づくりをめざして—精神保健福祉士の活躍の可能性—」（単著）『やまぐちの自治』Vol.126 pp19-39 2019.
- ・「精神保健福祉士の人材育成をめぐる現状と課題—包括的な地域生活支援において求められるソーシャルワーク実践に焦点をあてて—」（単著）『山口県立大学社会福祉学部紀要』第25号 2019.
- ・「福祉のできるアウトリーチ」（共著）『精神科臨床サービス』第18巻4号 pp418-422 2018.

[教員紹介へのリンク](#)

[教員データベースへのリンク](#)